

◇ 佐藤雄大君

○議長（松田謙吾君） 続いて、一般質問を続行いたします。

3番、会派みらい、佐藤雄大議員、登壇願います。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、会派みらい、佐藤雄大です。通告に従いまして2項目一般質問いたします。

1、町内の公園施設整備について。

(1)、町内における公園遊具の設置状況を踏まえた現状と課題について伺います。

(2)、公園施設の整備計画について伺います。

(3)、今後の公園施設のあり方、方向性について伺います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 「町内の公園施設整備」についてのご質問であります。

1項目めの「町内における公園遊具の設置状況を踏まえた現状と課題」についてであります。

都市公園内における遊具設置数は、106施設であります。その大半が昭和40年から50年代にかけて整備が行われたものであり、既に供用開始から数十年が経過し、施設の老朽化が極めて著しい状況にあります。

更に、昨年度実施しております公園遊具の健全度実態調査において、遊具全体の5割以上が使用不可という診断結果となり、現在、56施設に対し使用禁止措置を講じているところであります。

このことから、公園利用者への利便性の向上と安全性の確保に努めていくことが今後の課題と捉えております。

2項目めの「公園施設の整備計画」と3項目めの「今後の公園施設のあり方、方向性」については関連がありますので一括してお答えいたします。

本町では平成24年度に制定した白老町公園施設長寿命化計画に基づき、計画的な維持管理を進めてきたところでありますが、当初計画の策定から8年が経過し、劣化状況の進行により、更新・修繕計画と現状に差異が生じたことから、令和2年度において施設の再調査を含め、計画の一部を見直したところであります。

今後の整備方針といたしましては、人口減少や少子高齢化の進行を見据えるとともに、利用者のニーズに合わせた公園機能の確立とライフサイクルコストの低減を視野に、施設修繕による延命化と更新・改築を推進し、公園施設の健全化を図ってまいります。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。公園は、子供たちの遊ぶ場や地域コミュニティの

場、また避難場所としても様々な役割、そして重要な役割を担っております。そこで、今回は特に子供たちのため、そして将来を見据えた公園整備ということに重点を置いて質問いたします。

まず初めに、答弁の中にありました約半分の遊具が使えないとのことで、私も幾つか公園を確認しました。使用できない遊具の周りにテープが巻まかれている状態だと思います。令和2年度、直近の調査の際には時期的にもコロナと重なって、これは老朽化なのか感染対策なのか使えない理由が分からないという町民の声も聞かれております。そこで、まず初めに遊具の使用禁止について周知等はどのように実施したのか伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 舛田建設課長。

○建設課長（舛田紀和君） ただいまのご質問でございますが、確かに役場のほうにもコロナの影響で使用禁止しているのかという、そういったお電話もいただいている状況でございます。今回遊具の使用を禁止した措置の経緯について詳細をご説明を含めてご答弁をさせていただきますが、昨年度、長寿命化計画で実施いたしました現地調査、これは業務委託として発注してコンサルタントが実施しております。それと併せまして我々職員のほうで直営の点検業務を行っております。そういった点検業務の中で老朽化の判定が使用不可というような状況が見受けられまして、発生状況を確認した都度禁止措置を取ってまいった次第でございます。その後全公園の点検が終わりまして、遊具周辺の立入禁止措置を全公園終了した後に、周知方法といたしまして全町内会宛てに公園遊具の一部使用禁止の旨の町内回覧を配布したところでございます。回覧に記載した内容につきましては、先ほどと繰り返になりますが、点検等によって劣化が著しい遊具に対して安全確保のために使用禁止とさせていただきますという旨の通知をさせていただいております。町内回覧を配布した以降、一部の町内会長、それから一部の利用者の方からも問合せ等がございました。その問合せに対しましての町としての対応といたしましては、現地に向かつての協議、それから電話での対応をした限りでございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。町内会に周知したとのことなのですが、一度では伝わらないこともあるかと思えます。ですので、常に最新の情報等が見られるように、また何度も更新していくことが町民の方々の認知につながると思います。町のホームページでも情報発信をすべきかと思えますが、その点について見解を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 舛田建設課長。

○建設課長（舛田紀和君） 周知手法についてのご質問でございます。

確かに議員がおっしゃるとおり、そういった情報源、利用者の方々、町民の皆様方に対しまして広く素早くいろんな情報を周知するという観点でいけばホームページという部分の手法も有効な手段だと思います。それから、現在は止めている状況のみの周知ではあります

が、今後これから遊具の更新、公園施設の整備をしていくに当たってでもその辺でこういった公園が一部更新されました、使えますというような、そういったリアルタイムな情報を逐一提供できるという部分も含めると、そういったホームページの活用というのは今の使用禁止、これからの整備の更新状況をお伝えする上では有効な手段だと思いますので、この点につきましては対応を進めていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。また、町内の都市公園に該当する公園の状況調査、こちらは担当課でどれぐらいの頻度で実施しているか、また危険な部分ですとか破損していた際の対応策、これについて伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 舛田建設課長。

○建設課長（舛田紀和君） 管理体制に関するご質問であります。

公園の施設パトロールにつきましては、我々職員が2か月に1回定期点検をまず実施しております。これは直営の部分でございますが、あと本町におきましては公園里親制度という制度を導入しております。その制度に登録していただいております地域団体の方、それから地域事業者の方の維持管理をしていただいている中で情報をいただいたりですとか、そういった部分を踏まえて1年間の維持管理を実施しているところであります。それで、危険な部分の発覚ですとかトラブル、そういった部分につきましても、そういった日々の点検業務の中で情報をいただきながら、または自らそういう事案を見つけた場合には職員が再度現地を見た中で判断をして修繕及び禁止措置等々の状況に応じた対応を取っているところであります。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。以前よりパトロールというか、を増やして管理体制を強化した部分は評価できることだと思いますし、2か月に1回という頻度で行っているのであれば、先ほどのホームページの定期的な情報更新もできるかと思いますので、ぜひ期待しております。

続きまして、公園遊具についての町民の方々へのヒアリングですとかアンケート調査、これは実施したのかどうか伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 舛田建設課長。

○建設課長（舛田紀和君） 公園遊具に対するアンケート調査等のご質問でございます。

まず、長寿命化の一部更新見直しを行うに当たって全件昨年度は遊具の、その他の施設も含めて調査を行っております。ヒアリングという視点でいきますと、一月半余りかかった点検調査の中で、公園利用者がいた公園については利用されている、遊んでいる子供たちに公園に求める意見ですとかそういったものをお聞きした実態がございます。ただ、調査時期が

秋口からちょっと遅かった部分もありまして、現地で利用者等お会いをできたという回数は、ほぼ少数のヒアリング結果となっております。そのほかには学校の協力をいただきまして、小学校を対象にアンケート調査を昨年度実施してございます。この趣旨といたしましては、次年度から進めたいという計画であります遊具更新につきまして、子供たちの声を聞いていきたいという部分が主眼でございます。内容につきましては、今はどういった公園を活用しているのか、現状でどのような遊具で遊んでいるのか、また今後もし新しく遊具が設置されるとすればどういったもので遊びたいのか、そのような部分と、あとは自由意見的な部分の欄を設けて小学生に対してアンケートを実施しております。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。では、それらアンケートの結果を今後の公園の遊具の設置等にどう生かしていくか、考えを伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 舛田建設課長。

○建設課長（舛田紀和君） アンケートの結果を一部ご紹介をさせていただきますと、現在の公園での利用している遊具で一番多かったのがブランコという意見が多かったです。その後に滑り台、鉄棒という状況となっております、その他少数意見というのは何点かございました。これから遊具が更新された際にどんなものを設置を望みますかという問いに対しましても、現状利用しているブランコですとか滑り台ですとか鉄棒、コンビネーションという順に、そういった子供たちの声が聞き取れた状況になります。ただ、いろんな少数意見がある中で健康遊具というような記載事例もございました。このアンケート結果を基に、今後利用されている子供たちの声を最大限になるべく生かせるように実施計画に盛り込みながら遊具更新の整備を進めていきたいと考えている次第です。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。遊具や公園についてなのはすけれども、作られている子育て支援情報誌、小さな黄色い冊子があるのですけれども、こちらの中に町内で使うことができる遊具ですとか遊ぶことができる公園が詳細に記載されていまして、非常に情報が集約されて分かりやすい、すばらしい情報誌だと思っております。これは担当課は違うかもしれないのですけれども、こういったところからも情報収集等できるのではないかと考えますが、その点について見解を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 舛田建設課長。

○建設課長（舛田紀和君） 議員がおっしゃられました情報誌というのは、私も拝見させていただいた多分すくすく3・9の部分のかと思います。その冊子には公園内にある遊具、こういったものがお勧めですとかというような、そういう情報誌を作っているのは私も確認をさせていただいたところであります。こういった計画、そういったものを進め

中では全ての声というのを拾い上げるというのは非常に難しい部分があるかとも思います。ただ、公園利用者という部分でいきますと、小さい子供から高齢者の方まで幅広い層の方が利用されておりますので、そういった拾えるニーズについては耳を傾けていきたいという考えは重要だと思っています。あとそれと、子供たちの部分でも小学校に対してはアンケート調査は実施しておりますけれども、未就学児童の子と小学生とでは遊び方も違えば利用できる遊具も違います。そういったことも踏まえますと、お話にあったそういった町内の公園のことを小さい子供方のためにいろいろとお調べになっていただいている方々の声を聞くというのは非常に重要なことなのかと私としても捉えておりますので、今後その実施に向けての部分の中で、まだ期間は間に合いますので、そういった団体の声も拾っていきたくて考えております。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。そういった方々の声に耳を傾けるのも非常に重要だと思っておりますので、ぜひ期待しております。

続いて、公園施設整備計画について経過の状況と今後のスケジュールについて伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 舛田建設課長。

○建設課長（舛田紀和君） 同じような答弁になりますが、昨年度公園の長寿命化計画の一部見直し、施設の点検を含めた見直しを行っております。今回その見直しに基づきまして、今後の実施に向けてスケジュールを持って計画的に進めていきたいという考えではございます。それで、今後のスケジュールといたしましては、担当課としての考えでは来年度、令和4年度より公園整備に向けて進めていきたいという考えでおりますが、まだ4年度につきましては予算の査定中でございますので、何をどうこうというような考え方についてはお示しを今はできないのですが、ただ早急にまず対策を取りたいと考えておりますのが昨年、萩の里自然公園でエントランス広場の枕木での転倒事故がございました。そういった部分の箇所は緊急性が非常に高いと。遊具も老朽化はしていますけれども、そういった事故の部分での利用が今非常に問題のある箇所でございますので、まずはエントランス広場の枕木の床面の部分をバリアフリー化の観点、視点を捉えて舗装化で整備を進めたいというのが担当課が考えている計画の一つであります。そのほかに、事業費にもよるのですが、遊具の更新を併せて部分的に進めながら継続的にそういった更新作業を実施していきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。これは子育て世代の方々に実際にお話を聞くと、遊具も立派なものには要らないと。危なかったり使えない遊具が撤去されて、ブランコですと

かそのほかの遊具が1つか2つくらいあればいいといった声ですとか、自宅から少し歩いていけるぐらいの近所の公園に気軽に遊びに行きたいといった声も聞かれました。また、なかなか利用者がいなくて使っていないと思われるのだけれども、使いたくても使えない本音があるというお話も中には言っていた方もいらっしゃいました。そこで、今後の公園の選択と集中を踏まえた公園機能の考え方、整備方針について見解を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 舛田建設課長。

○建設課長（舛田紀和君） 今後の整備に伴う選択と集中というご質問でございます。

まず、公園機能の部分につきましては、先ほど議員のお話にもありました緑のある空間で利用者の方がくつろいだり体を動かしたり、そういった機能ですとか防災性、それから地域コミュニティの場、子育てといういろんな機能が公園には持たれております。そういった機能というのは維持していかなければならないという部分もございますが、昨今の人口減少、それから少子高齢化、こういった時代の変化の部分と、あとは現在の限りある予算の部分も含めると、やっぱり今ある公園と同じものを同じように復元するということは、もしくは新たに大きなものを造るという部分というのは考えにくいのかと我々は考えております。そういった部分も含めまして、現在設置されている公園の中で地域の特性ですとか立地条件、それから利用の多いところ、そういった部分の必要性、重要性の高いところを選択しながら公園施設の水準を集中させてメリ張りの利いた事業展開というのを進めていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。例えば緑丘にあるどんぐり公園には遊具はありません。ただ緑の広場と少し小さいというか、山がある状態です。この広場の機能として利用されている状況であります。遊具がある公園はもちろんすごくいいことだとは思いますが、広場としての公園の機能も必要なのかと考えます。また、利用頻度が低い公園ですとかライフサイクルコストの面でも遊具の撤去が必要な公園もあると考えますが、その点について見解を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 舛田建設課長。

○建設課長（舛田紀和君） 今のご質問でございますが、確かに遊具で遊ぶのも遊び方の一つでございますし、広場で野球をしたりサッカーをしたりという、遊んでいらっしゃる子供もいらっしゃいます。今我々が考えております公園、公園の再編というのではなく、一つの公園の中の機能の再編化というのを考えているところです。そのときに今後重要になってくるという部分でいけば、やっぱり利用頻度が低くて、さらに遊具が老朽化している、そういった公園については撤去だけを進めて遊具は設けなくて広場機能としてやっていくことはライフサイクルコストの低減にはつながりますし、とても有効な手段だと、そういうことを進めていくというのも考えの一つとしてはございます。昨年度の委託業務の中でも調べ

てはいるのですけれども、実際に本町の公園整備というのが、特に公園を供用開始されたのが昭和55年代です。昭和55年代というのが本町においては総人口2万4,000人、現在2年度の数字ですが1万6,000人と、人口減少という部分も34%減少しているのが事実です。さらに、年少人口で見ますと6,300人に対しまして令和2年度で1,130人と、82%も減少しているという、そういった結果が出ております。こういった現状はきちんと押さえて方針を立てていかなければならないという観点で今回見直しを進めているわけでありまして。ただ、今あるものの中に今まであったものをゼロにしてしまうという部分では、そこは地域の了解、ご理解をいただければ、そういった遊具を全くゼロにするというのは今後の町内会等々も含めてのお話合いだと思います。それで、急にそういったような状態にするというよりは一つ一つの今ある公園が、今のいろんな人口減少等の部分の経過を見たときには5個あるから、5個復元するのではなく、そういったところを減少をしながら、遊具の数を減少しながら、ただ声を拾って喜ばれるものを設置し、数は減少しながら、全体数を抑えながら、逆に多く集まるような箇所に少し増やしていくというような形でトータル的にライフサイクルコストを低減を図っていきながら、逆に今度は空いたスペースを広場として活用できる機能を増やしながら整備を進めていきたいと我々のほうは考えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。非常に前向きな答弁として捉えさせていただきます。私も子供の頃よく公園で野球ですとか外遊びをしてたくさん遊びました。当時は野球をするときにバックネットがなかったので、自転車で行って自転車でバックネットを作るといったこともしておりました。ただ、その後私がよく行っていた公園で鉄パイプとネットで簡易的なバックネットのようなものが設置されて、すごく喜んだことを鮮明に覚えております。当時の私たちにとっては、あのバックネットは立派な遊具の一つでありました。そして、何より公園で遊んだ日々は一生忘れられない、かけがえのない遊びの時間でありました。こういったことから、外遊びですとか教育の視点でも公園は非常に重要であると考えますが、町の考えを伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 子供たちが成長する上で公園の持つ効果についてのご質問だと思います。

佐藤議員が幼少のときの体験をお話をされましたけれども、今の子供たちにとっても公園の持っている役割は変わらないのだと思います。思うのは、いろんなことが多分期待できると思いますが、大きく言えば体の面と心の面、特に社会性という面で大きく2つあるのかと思います。例えば体の面でいいますと、健康な体づくりですとか運動能力や身体機能の向上、こういったことが多分大きく期待できると思いますし、また社会性の部分でいえば公園でいろんな年代の子供たちが遊ぶことで一定のルールですとかマナーですとか、そういっ

たことも学習するでしょうし、あるいは他者との関わり方という意味ではいろんな、コミュニケーション能力という言い方をしますけれども、そういったものも普通の遊びとは違って、そういう公園の中で特にそういったものが必要になると思いますので、今私がお話をしたのは本当にごく一部の効果かもしれませんが、いずれにしても子供たちが健全に成長していく上ではとても大切な環境だと認識しております。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。1項目めの最後の質問になります。

都市計画マスタープラン、先日の全員協議会のほうでは縮充といって人口や税収が縮小しながらも地域の営みや住民生活が充実したものになっていくという考え方が示されていたかと思います。この考え方は、今後のまちを見据えた上で非常によい考え方ですし、共感するところであると思っております。公園は縮小していても充実しているものにしていく、そういった縮充を形にした公園も目指すべきであるのかと思います。地域コミュニティのため、そして子供たちのためにも今後を見据えた上で早急な対応、またさらなる整備、対策が重要であると考えますが、町の考えを伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 公園の整備について議論をさせていただきました。議員のほうから都市計画マスタープランの縮充の関係のお話も聞きました。都市計画マスタープランにつきましては、この縮充ということを中心に都市計画マスタープランをつくっていきたいと思っております。公園についても、将来は人口減少の影響を受けてくるということになると思います。ですから、公園機能も変わっていくようなことにはなるのだろうと考えています。しかし、公園の目的というのは基本的には変わることはないと考えております。子供たちだとか地域の方、それから町外から来られた方が楽しむことができる安心した公園は、今後も必要になるだろうと考えています。議員からいただいた意見も参考としながら必要な整備だとか安全対策を計画に基づいて進めていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 暫時休憩します。

休憩 午後 1時59分

---

再開 午後 2時14分

○議長（松田謙吾君） 休憩を閉じ一般質問を続行いたします。

3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。では、続きまして2項目めについて質問いたします。

2、文化力の高い白老町の観光振興について。



(1)、コロナ禍の現状を踏まえた観光入込客数の目標値と達成に向けた施策について伺います。

い

(2)、DMOの取組状況及び想定する役割と今後の施策等の考えについて伺います。

(3)、ウポポイ開設後における教育旅行の受入れ状況と課題について伺います。

(4)、文化の創造と本町の観光振興における可能性についての考えを伺います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 「文化力の高い白老町の観光振興」についてのご質問であります。

1項目めの「コロナ禍の現状を踏まえた観光入込客数の目標値と達成に向けた施策」についてであります。

令和2年度の観光入込客数は、前年より約1割増加の177万人と、コロナ禍において全国的にも観光客数が軒並み減少している中、本町ではウポポイの開業効果もあり、市町村別では道内5番目の観光入込客数を記録したところであります。

観光入込客数の目標値としましては、予測の不確実性もありコロナ以前に掲げていた300万人から変更しておりませんが、経済循環の回復を目的とした事業としまして白老観光協会による「ウェルカムしらおいキャンペーン」という宿泊割引や周遊促進の割引クーポン等の事業を展開しているところであります。感染対策を引き続き確実に実施するよう促すとともに、選ばれる観光地となるよう今後も施策に取り組んでまいります。

2項目めの「DMOの取組状況及び想定する役割と今後の施策等の考え」についてであります。

DMOについては、令和元年8月に白老観光協会が地域DMOの候補法人として登録を行い、来年8月までに本登録を行うべく準備を進めているところであります。地域DMOには、観光ガイドや体験プログラムの提供、飲食や宿泊に関する情報提供はもちろんのこと、観光で訪れる皆さまと地域を繋ぎ新たな価値を見出す役割を期待しております。

3項目めの「ウポポイ開設後における教育旅行の受入れ状況と課題」についてであります。

ウポポイには、令和2年7月の開業から本年11月までに1,244校、9万4,478人が教育旅行で来場しております。教育旅行の受け入れに関して、ウポポイ以外の立ち寄りや食事の提供が課題と考えており、学校や旅行事業者等に適宜最新情報を提供するとともに、ご意見を伺いながら課題解決に努めてまいります。

4項目めの「文化の創造と本町の観光振興における可能性についての考え」についてであります。

本町には、アイヌ文化や仙台藩元陣屋などの歴史をはじめ、近年では飛生芸術祭など芸術文化も根付いてきております。文化の保全・継承・発展を促しつつ、観光振興にも活かして

いく多文化共生のまちづくりを推進してまいります。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。全道のトップ20の自治体のうち入り込み数が唯一増加しているのが本町でありますし、全国的に見ても増加率としては非常にトップクラスのものでありますので、可能性を秘めているということが言えるのかと思います。また、ウポポイだけではなく本町独自の文化の創造、文化力の高いまちづくりをすることが多文化共生のまちづくりにつながると考えますので、それらを踏まえて一般質問いたします。

まず、1点目、ウポポイの当初目標100万人という目標がございましたが、これが達成されないままコロナ禍で入り込み人数が他市町村と比較して非常に優位性があったのかと捉えておりますが、その点についてまず見解を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 観光入り込み客数についてでございます。

議員のお話がありましたとおり、コロナ禍の影響の中で北海道内は軒並み観光入り込みが減少している状況にある中、本町においては伸びていったといえますか、観光入り込み客数が前年よりも伸びたという結果が出てございます。これはまさしくウポポイによる効果の大きいところかと思っております。ちなみに、胆振管内においても唯一前年よりプラスになったのは本町だけというような状況になっておりますので、やはりウポポイの開業効果が大きかったという捉えでございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。では続いて、令和2年度の観光入り込み数の増減要因を分析していると認識しているのですけれども、こちらの分析内容について総括的な部分を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 総括的な答弁をさせていただきたいと思います。

確かに前年比17万7,000人の増となっておりますが、内訳を実は見ていきますと宿泊者数が前年対比56.8%、4万4,046人の減ということで、宿泊者数が減少しているというような状況でございます。逆に日帰り客数につきましては22万1,123人の増ということになりまして、こちらは前年比114.8%と。これは、コロナ禍の緊急事態宣言等も含めて宿泊のお客様がやはり急減したという部分、それから来日される外国人の方も来られないというような状況の中で宿泊者が急減したというような中身でございます。特に地区別でいいますと、虎杖浜、竹浦地区が非常に落ち込んでございます。これは温泉の宿泊者がまさに減りまして、こちらについても前年比約73.3%で24万9,000、全体で、虎杖浜、竹浦地区で24万9,227人の減ということで、そういった温泉、宿泊とかに伴ってお土産店ですとかそういったところに

も波及していった、それからイベント等もコロナの影響で開催できなかったという部分も含めて非常に虎杖浜、竹浦地区のお客様が減ったということが令和2年度の結果だったというところが非常に残念だったと捉えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。私も増減要因、インターネットで調べて出てくるものだと思うのですが、これはかなり分析されていますし、課長の答弁にもありましたが、地区ごとの課題も明確なわけですから、この要因分析をしっかり生かして観光施策を実施すべきかと思えます。例えばこちらに自然景観がよかったと、こういう影響で自然に触れ合うことですかキャンプの増加につながったという分析をされておりますが、ではこれを生かして自然ですかアウトドアのPRをしていくこと、あるいは虎杖浜温泉地区が伸び悩んだということでもありますので、こちらに対してのPRは温泉に特化したものにしていくとかということが効果的であると考えますが、その点について見解を伺いたいと思えます。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 佐藤議員がおっしゃられたとおり、体験ですか自然景観を楽しむといった部分については倶多楽湖周辺も含めて若干の伸びはあるものの、やはり宿泊客の減少という温泉街のところが大きな要因だったと我々も捉えております。そういった中で、ではどういう対策を打っていかなければならないのかということでございますけれども、今年度実施させていただきましたウエルカムしらおいキャンペーンもその一つであると捉えておりますし、これで十分かというところ、まだまだ十分ではないというところも捉えておりますので、いろいろなアイデアを出しながら白老町にお客様を呼び込んで、いかに滞在していただけるか、そういうことをきちんと捉えながらこれからも進めていければと考えております。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。ウエルカムしらおいキャンペーンのお話がありましたけれども、これは今後DMOもこういったことを担っていくのかと思えます。今回のこのキャンペーンは、10月から今月の25日までですか、やっていると思うのですが、このキャンペーンの内容の確認と目的、また現時点で把握している範囲でこれらの効果について伺いたいと思えます。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） こちらの事業内容についてでございます。

事業費につきましては、総額6,150万4,000円ということでやらさせていただいてございます。大きく3つの事業から成り立っておりまして、1つ目はしらおい観光満喫割といいま

して宿泊されるお客様に対して最大50%、上限5,000円の宿泊プラスお一人に2,000円分の町内で使えるクーポン券の発行をさせている事業でございます。また、もう一つが町内対象施設で1,000円以上の買物をしたお客様に対して300円の割引ができるしらおい周遊クーポン事業というものでございます。それから、最後もう一点が町内対象施設に設置してあるQRコードを読み込んでいただきまして、2か所以上のスタンプ獲得でプレゼントに応募できるしらおいスタンプラリーというものを実施させていただいているところでございます。

議員からお話がありましたとおり、現在まだこの事業をやっております、分析はまだ完全ではないのですが、やっている最中での状況をお話をさせていただければと思います。11月末現在で店舗数としまして、しらおい観光満喫割事業につきましては、こちらはホテル、宿泊、民泊等を含めて最大50%の割引のできる事業につきましては23件の、23か所といたしますか、ところが参加させていただいております。また、2,000円クーポンにつきましては71件のところの登録をいただいております。それから、しらおい周遊クーポン事業ですけれども、こちらは300円の割引の部分ですが、これは70店舗、飲食店、お土産店等々含めて参加させていただいております。しらおいスタンプラリー事業につきましては、全68件の店舗数が参加していただいているというような状況になってございます。その実態としてどうなっているかといいますと、11月末現在なのですが、宿泊の割引につきましては3,814人のお客様が活用させていただいているということで、使われている金額でいきますと1,744万2,000円となっております、ここの事業費が2,500万円ですので、おおむね使われて、半数以上も使われているような状況になってございます。また、2,000円クーポンにつきましても、現在1,400万円の予算に対しまして453万円ということで、11月末現在の実績と捉えているところでございます。また、しらおい周遊クーポン事業では、既に1店舗当たり100件までというような制限を設けさせていただいております、11月現在で19件のところで使い切ったというような情報もこちらに届いております。また、しらおいスタンプラリー事業につきましては、参加者773名が既に参加されております。これは北海道内のみならず、道外客の方も参加されているというような状況になっているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。これは300円クーポンも宿泊の2,000円クーポンもそうなのですが、利用される方々からは非常に好評の声をたくさんいただきました。その点について非常に評価できるのかと思います。ただ、一方で事業者の方々、宿泊事業者等々の方々からはルールの説明だったりとかが少し曖昧で困惑している事業者もあったという話が聞かれております。これらの課題認識、そして改善に向けた取組について見解を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） おっしゃられていただいた課題の部分は、本当にこちらの説明の仕方といたしますか、もう少し親切丁寧に説明する方法もあったというところで、そこは反省をさせていただいているところでございますし、観光協会とも協議させていただいているところでございます。そのほかの課題としましては、事業者の声としては予算があればもっと延長してほしいという希望であったりですか第2弾を実施してほしい、またはどうみん割と時期をずらして実施してほしい、これは事業者によっては、使う側は多分割引になって併用になるとメリットを大きく感じると思いますけれども、事業者側は長くやっていただきたいという思いと事務的な手続の部分で難しくなる部分もあるので、そういった思いも込めてのコメントなのかと捉えておりますけれども、どうみん割と時期をずらして実施していただければといったような声も上がっているというようところでございます。また、しらおいスタンプラリー事業については、実はQRコードをこういった小さいレジ横に置けるようなスタンドタイプのものを用意していたのですけれども、分かりづらいたとかお客様に見えづらいたとか、そういったものもありますので、ポスターやチラシ、そういったものももっと用意すべきだったということで、そこも反省といたしますか、今後の課題だと捉えております。また、宿泊割引等も含めてチラシとかリーフレット、この辺も若干足りなかったというところで、もう少しそういう周知の部分、新聞広告で大きく、多分北海道で一番最初に全面を使って新聞広告もさせていただきましたけれども、そればかりではなくて、そういったチラシ類、ポスター類、リーフレット等ももう少し充実させてやらなければいけなかったという課題として捉えているというところでございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。そういった改善点は、第2弾がもしあるのだとしたらそういうところに活かしていくべきかと思っておりますし、こういった事業を、先ほどの入り込み数の分析をされていましてけれども、その数字の成果を深掘りして行って、よりよい事業にしていくことが必要であると思っておりますし、それこそが次につながると思っております。例えばクーポンの額、1,000円以上のお買物で300円、これは上限が各店舗で100枚ということだと思っておりますけれども、より多くの観光客の方々に利用してもらおうという目的を持った場合は200円で150枚だとどうなるのかといったことや、あるいはただ単に経済効果を高めようということであれば500円で60枚にして使える金額の上限を上げるとか、そういったことも、これはあくまで例ですけれども、様々な手段というか、あると思っておりますので、ぜひその点についても政策議論をより活発に事業実施して行っていただきたいと思っております。また、平均の単価ですとか、町外から来られた方は新規のファンの獲得にもつながると思っておりますので、こういったことを多く分析することでいろんな効果も出てくるかと思っておりますし、様々な事業につながると考えますが、その点について見解を伺いたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 先ほども分析させていただいた内容をお話をさせていただいたのですが、宿泊割引等で特に来ているところの分析も実は若干させていただいておまして、道内については道央圏が中心となっておりますが、道外においては東京都、茨城県、千葉県、神奈川県、それから北陸のほうになりますが、石川県、それから長野県、愛知県、和歌山県、遠くは大阪府、広島県、沖縄県からもお客様が見えられているということで、全国から来ていただいている状況になっております。これは、もっともっと周知すればたくさん地域からもっともっとお客が来ていただけるという認識もございますので、先ほども申しました課題を解決しながら、お話にありました単価の設定の仕方もそうですけれども、どうやったら多くのお客様が使って、より有効にということを探りながら、もし次回等できることとすればそういった課題も含めて整理しながら次に向けていければいいかと捉えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。コロナが徐々に収束に向かいつつありますので、去年より今年、今年より来年のほうが入り込み客数は増加していくと推測されるのかと思います。分析をして、よく言われますけれども、PDCAサイクルを回すこと、ここで数字の根拠を持つということは政策形成においても非常に重要だと考えます。成果の報告の部分で観光客が増えて経済効果が大きかったという報告と、170万人が来て北海道内5位の入り込み数で北海道の自治体では唯一前年比増だったと、5年間で一番観光客が来ていて経済効果としてこれだけあったという報告があったとしたら、どちらのほうの説得力ですか根拠があるかは明白だと思います。ですので、数字の根拠を持つという政策形成の観点で、これは理事者の見解を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

○町長（戸田彦彦君） 観光客に対する数字の根拠のご質問でございます。

担当課長と佐藤議員でるるお話があったとおり、昨年度については北海道の中でも唯一と言っていいほど観光客が伸びました。それは間違いなくウポポイ効果だと思っておりますし、この数字にあぐらをかくことなくまだ伸ばしていきたいと思っております。

数字の根拠なのですけれども、先ほどデータの話もあったのですが、ウポポイを中心にしたデータの結果だと思っておりますので、白老町にはまだまだたくさんの観光のメニューがありますから、ここはもっともっと数字を伸ばしていかなければならないと考えています。それと併せてウポポイ効果で伸びた分があるので、ウポポイがまだコロナ禍でこの数字なので、ウポポイが100万人の目標を達成したときには今の4倍の観光客が白老町に来ることを考えますと4倍の波及効果が考えられますので、弱みを強みに変えるというのも一つの手なのですけれども、ウポポイに来たお客様をまだまだ周遊させるという取組のほう白老町にとっては数字は伸びると思っておりますので、そこら辺はきちんと社

台から虎杖浜までの観光のポテンシャルのある地域や人たちときちんと連携をしながら進んでいけばいいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。実際に既に実施している部分もあると思うのですが、より数字の部分を意識して取り組むことを期待しております。

続きまして、教育旅行について質問いたしますが、教育旅行における経済波及効果をどのように捉えているか、また昼食事業者の答弁がございましたが、それを含めて町外に経済活動が流出していないかどうか、その点について伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 教育旅行についてのご質問でございます。

先ほど町長の答弁の中で見えてきている教育旅行の数字についてはお話をしたところですが、経済効果のお話、経済効果といいますか、その部分については単にウポポイが中心に来ている教育旅行ではなくて、町内にも体験メニューといいますか、そういったものを持った事業者もいらっしゃいますので、そういったところであったりとか、それから食事、やはり大きくは来られたら食事、今は正直申し上げますとお弁当が主になっているところもありますけれども、我々としてはまだまだ食事をするところもございますので、そういったPR活動も積極的にやっつけていかなければならないというような課題も捉えておりますので、その辺についてはこれからも力を入れていきたいと考えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。実際に修学旅行で来た町外の、札幌市の児童が町内事業者のお昼御飯を食べておいしいということを親御さんに伝えたらしくて、その親御さんと一緒にご家族でお店を訪れたということが実際にあったそうです。これは、教育旅行ということに関してだけではなくて交流人口ですとか、また関係人口の増加にまで波及効果があると言えると思いますが、その点について見解を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 具体的な例として佐藤議員のほうからお話がありました。まさしくそのとおりだと思いますし、我々も来た児童生徒に印象に残ってもらうような、まちとして観光地にしたいという思いで日々取り組んでいるところでございます。ですから、そういった中で、単にウポポイに来るのではなくて、我々として学校であったり旅行会社に白老町にはこういったものがあります、こういう体験メニューがありますですとか、こういった食事ができますというような白老町ならではの体験メニューであったり食事であったり、そういったものを積極的にやっつけていかなければならないと捉えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。教育旅行で来た児童ですとか生徒は秋頃までが多かったと思うのですが、晴れた日にはウポポイ内の広場というのですか、の芝生の部分でレジャーシートを敷いて食べたりとかテントの中で昼食を食べる学校もあったと認識しております。今は町内で昼食を食べてからウポポイを見学するということがほとんどない状態であると認識しております。今年度はコロナ禍もあったので、お弁当等をバスの中でそのまま食べるという、これは感染対策の面でも必要なことだったのかと思うのですが、今後昼食を食べる場所の設置ですとか、あるいはその場所の貸出し等の考えがあるのかどうか伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） ただいまの質問でございますけれども、実は本年、令和3年に入ってから町内のある公共施設、具体的にはコミュニティセンターですとか経済センターを一部ご使用いただいて、回数こそ12回ということで、12校の学校が今月までの中でありました。こういった部分はその後の体験メニューに参加していただくですとか、そういったことにもつながってくるのではないのかという、バスの中だけではなくてそういった部分にもつながってくることも当然想定されますので、これは関係課との協議もありますけれども、そういった部分も各課に依頼しながら、そういった施設の活用ももっともっと進めていければと考えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。課長から答弁があったとおり、そこで昼食を食べてもらうだけではなくて体験も同時にしてもらおうという視点、非常に重要だと思います。例えばアイヌ民族の衣装を着ていただいたりとか仙台藩元陣屋資料館との連携、あるいは他校の小学生と本町の小学生と一緒にアイヌ文化を体験するような、ムックリと一緒に演奏したりですとか、そういった地域間交流もつながることはどちらの子供たちにとっても非常に貴重な体験になると考えます。そして、修学旅行は一生の思い出になると思いますので、町外から修学旅行でせっかく本町に来てくれた子供たちに対してウポポイだけではない本町でのおもてなしをすべきだと考えますが、その点についても再度見解を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 本当に議員がおっしゃられたとおり、先ほども答弁させていただきましたけれども、児童生徒に心に残ってもらう、また大人になったらリピーターになってもらう、その家族をまた連れて白老町に訪れたいというような好循環になるよう我々は進めていかなければならないと思いますし、少なからずウポポイだけではなくて社



台から虎杖浜まで町内のいいところをPRしていかなければならない。取組としましては、町だけではなくて観光協会や、それから体験事業者、それからいろいろなNPO団体もごさいますし、また自治体間での連携としまして登別市・白老町観光連絡協議会等々ごさいますので、そういったところとも手を携えながらPR活動をさせていただきたいと考えています。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。非常に前向きな答弁をいただきましたので、今後に期待しております。

4項目め、文化の創造と本町の観光振興について、文化施策ということで少し議論したいのですけれども、現在白老町と同じ人口規模での全国市町村での文化、観光振興の先進事例が多発している状況であります。これは、交流人口、関係人口の創出、移住定住、雇用創出、それらも含めた経済効果、これら全てに効果をもたらしていると言えます。いずれも成功の共通点といたしましては、行政、民間、既存団体、また多様なクリエイターのワンチーム体制で成果を出しているということでもあります。本町であれば飛生の森づくりプロジェクトは、これは2011年に始動しております。続いて、ウイマム文化芸術プロジェクトは2018年、今年度からスタートした白老文化芸術共創と、多くの文化芸術活動が展開されている状況であります。また、これらの活動に関わる方々は、多くの方々は町外の在住者の方々でありますから、白老町に長年通い続けている現状もあります。全国の中でも一つの小さな地域にこれだけ長期間にわたって活動されて関係人口を生み続けている事例は非常に珍しく、貴重かつ前向きな事例として国の省庁機関、大学の研究室、あるいは国内の地方創生団体をはじめ多くの取材ですとか調査レポートが報告されて、全国的に注目されている状況であります。また、国が推奨する地方の芸術活動による観光振興、文化観光推進法、そのほかたくさんのお金がですとか支援事業もあります。多文化共生を掲げる本町、そして本町の未来のためのチャンスは、まさしく今ここにあると思います。町内での活動事例、そして交付金などを含めて町としてどう捉えているか見解を伺いたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 文化の部分でのお話が、交付金等を活用されてそれぞれ活躍されているというお話がございました。町としましては、先ほどの答弁とも重複しますが、文化のみならず様々な職であったり歴史であったり自然であったり、本町にたくさんのお客さん、観光コンテンツと申しますか、そういったものがありますので、それらも含めて観光施策を積極的にやっていかなければ目標に掲げている観光客の方においでいただけない、また周遊していただくということも含めて様々な取組をしていかなければならないということになります。そういった中での交付金というものがあるものであれば、その事業の目的に沿った交付金、交付金のための交付金ではなくて事業目的をきちんと持った上でその

交付金が合致するというようなことであれば、そういったものも十分検討しながら進めていけるものは進めていきたいと考えているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 今年度実施された白老文化芸術共創について少しご紹介させていただきますが、ウポポイのインフォメーションセンター内に一定期間特設コーナーが設けられました。地域プロジェクトとしては恐らく初めての受入れであり、広報協力がなされました。白老文化観光推進実行委員会では、文化庁、アイヌ民族文化財団、国立博物館等、現在も多様な意見交換が継続されております。来年以降も国立施設、そして地域アートプロジェクトの事例づくりに大きな期待ができると言えます。また、先日「蔵」で行われました白老文化観光推進セミナーにおいて、私も参加いたしました。数多くの町民の皆様、また同僚議員、そして白老町職員の方々、両副町長も実際に足を運んだと認識しております。こういったことから、町側も以前より文化や芸術、観光施策に対する意識が向上しているのではないかと捉えております。これらの文化芸術活動が盛んに行われている本町は、大変恵まれている状況であると思えますし、波及効果は幅広く大きいものであります。町がこれらの活動の価値を再確認、そして気づくことが必要であり、そして町内で活躍されている文化活動団体との連携や取組を改めてより一層強化すべきと強く訴えますが、これは理事者の見解を伺いたいと思えます。

○議長（松田謙吾君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 文化の関係でございますけれども、私も先ほど議員がお話をされました講演会に参加させていただきました。それで、最近のことなのですけれども、虎杖浜のほうで屋外の写真展ですか、ああいうものが実行されたということで、地域の方だとか町外の方が見に来られたということです。これも一つの観光という部分で考えられるのかと思っておりますし、その写真を、この前報道にも出ていましたけれども、保存をしていくのだということで地域の方たちがそういう活動をされたということで、これまた新しい取組になると考えています。ですから、こういった一つ一つの観光資産というのですか、そういったものを大事にしながらこれを結びつけていく、文化と観光を結びつけていくといったことが今後必要になってくるのだろうと考えています。これは町だけがということにはなりませんので、関係する団体だとか町だとか、それから地域の方たちとか、そういった方たちと連携を取りながら進められればと考えています。

○議長（松田謙吾君） 池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） まちの芸術文化の関係でいきますと、我々のほうも今取り組んでいることを若干ご紹介していかないとならないと思っておりますので、補足で答弁させていただきます。

今は飛生の関係でいろいろな取組が行われておりまして、飛生の芸術祭につきましては

当初1,000人規模から2,000人となり、ウイナム文化芸術プロジェクトだとかそういう取扱いの中で6,000人を超えるような入り込みになっております。近年コロナで実数はまだ報告はいただいているのではありませんけれども、その中で連携して仙台藩元陣屋資料館の中での木彫り熊展とかも1,600人を超えるような来場がありまして、今後も連携を密にしていきたいとは考えております。

ほかの、この議会の中でも議員から仙台藩元陣屋資料館ですとか文化芸術の部分もある程度まちの経済を起すために必要な部分ではないかということで、我々が今考えている部分につきましては、これまでも地方創生推進交付金を活用して、200万円程度の予算でしたが、ウイナム文化芸術プロジェクトと連携して飛生とかの芸術家が町内に入ってくるという取組も支援してきました。また、現在も側面的な支援でとどまっておりますが、仙台藩元陣屋資料館の学芸員がふるさと再発見シリーズという刊行物を、社台から虎杖浜までの文化だとかそういう部分をご紹介しているものがありまして、併せてうちの資料館の友の会というガイド人材が今は20名を超える所帯になっています。当然まちづくりガイドセンターというところも新たに出てきましたので、そういう部分はまちの様々な文化ですとか歴史ですとか、社台から虎杖浜までをうまくつなぐ手法、今教育のほうで来られているエージェントも白老町にそういうガイドがしっかりないというところで札幌市からわざわざガイドを連れてきているという状況もあるということでお聞きしておりますので、我々が友の会ですとかガイドセンターと協力して、町場でこういういろいろなガイドができるよ、仙台藩元陣屋資料館に行った後に虎杖浜に行けます、飛生に行った後にあそこに行けばこんな講座があります、デマンドバスもありますので、デマンドバスで講座ができないかというのも一度試してみたりもしています。

そういうことを連携した中で、より一層町内で滞在する方法、またガイド人材の育成、それから連携していくこと、それからもう一つ、公民館講座でやらせていただいている部分については、やはりSNSという分野で情報発信していかないとならないと思ひまして、公民館講座で地元の方で動画編集している会社の方を講師にお招きして動画編集の講座を数回開催させていただいています。その結果で、その方々は自発的にユーチューブですとかそういうSNSで発信していただいている部分もありますので、こういうありとあらゆる部分を今教育委員会の事業としては提供していますけれども、それは観光分野の方々と情報を連携を取らせていただきまして、そういう部分の中で、まずは教育委員会、芸術文化の担当部門としても町内にいかにして経済を貢献できるかというのを主眼に置いて取り組まさせていただきます。

○議長（松田謙吾君） 3番、佐藤雄大議員。

〔3番 佐藤雄大君登壇〕

○3番（佐藤雄大君） 3番、佐藤です。最後になります。

本町は、多くの観光資源、そして文化芸術が充実しております。さらには国立博物館ウゴ

ポイもあります。ただ、本町の本当の価値に私たち自身が気づかなければいけないと思います。冒頭でも同様なことを申し上げましたが、北海道だけではなくて全国でもトップクラスの豊かさがあると私は確信しております。今後は全国どのまちにもまねすることができない本町の独自性、優位性を生かしながら先を見据えた文化の創造と観光、またそのほかの事業も連動させたまちづくりを目指すべきであると考えます。それこそが本町、そして町長が掲げる多文化共生のまちづくりだと考えます。20年後、30年後のまちの将来を見据えた多文化共生のまちづくりへの意気込みと覚悟を改めて町長に伺い、一般質問を終わりたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 今回佐藤議員が文化力の高い白老町の観光振興というテーマでござります。

多文化共生のまちづくりの中の手法の一つとして文化であったり観光であったりというものがある、今は文化を生かした観光づくりというのはこのまちでも力を入れている状況だと認識しております。その中で、もともと多文化共生のまちづくりとお話している観光振興の一つで虎杖浜から社台までたくさんの白老町の強みがあるのをきちんと連携して、パッケージにして商品化したいというお話もさせていただきました。ようやく、先ほど生涯学習課長もお話をしたとおり、仙台藩元陣屋資料館でガイドの人たちの会ができたりガイドセンターが立ち上がって、まだまだ小さいパッケージではありますが、虎杖浜でタラコを詰めて温泉に入ってウポポイだとか、パッケージも旅行会社でつくっていただいたりして実際に日帰り観光客が白老町にも来ております。その中に先ほど言った飛生芸術祭も含めた芸術を核とした文化の発信も入ってこれるので、この辺も横のつながりをもっと密にして観光振興につなげていければもっともっと多文化共生の観光としての部分が強くなると思っておりますので、先ほど交付金の話もございました。交付金や補助金等々も狙いつつ、今はコロナ禍でなかなか難しい時期ではありますが、このコロナ禍は必ず終息しますので、終息のときには北海道が外国人観光客400万人という目標も掲げていましたので、必ず外国人も日本の国内の観光客も増えてくると思っております。それに遅れることなく多文化共生のまちづくりを進めていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 以上をもって会派みらい、3番、佐藤雄大議員の一般質問を終わります。